

宗茂の大活躍を記録した天野源右衛門

江戸前期の兵学者・山鹿素行の『武家事紀』によれば、安田作兵衛改め天野源右衛門は、世を隠れるどころか、織田信長の四男で羽柴（のち豊臣）秀吉の養子となった羽柴秀勝、次いで秀吉の弟・秀長に仕え、天正10（1582）年4月の賤ヶ岳の合戦に参陣。功名をあげていました。

その後、名将・蒲生氏郷に仕え、さらに九州の立花宗茂の許へ。天野は大名たちにとって、よほど魅力的な武人だったのでしよう。

彼をめぐって、豊臣家武断派の筆頭・福島正則が、宗茂と引き抜き合戦を戦った逸話が伝えられています。

宗茂に天野を取られた正則は、



安田作兵衛の墓（浄泰寺、佐賀県唐津市）

これを恨み、双方を知る黒田長政が、仲直りの宴を設けたのですが、その席上、盃を一度飲んだ宗茂が、正則に盃を差し出すと、この荒武者はたてつづけに三盃受けました。カチンと来た宗茂は、すくつと立ち上がるや、

「では、酒の肴に一差、それがしが舞いましょうか」といい、仁王舞を舞いました。

その豪壮で高雅な舞いは、居合わせた人々の拍手喝采を浴びています。しかしその実、宗茂がくり出した拳は、正確に正則の眼前で突き出され、振りおろされていたのです。

「こいつは、いざとなればわしを一突きで殺すやもしれぬ」と心底、思い知った正則は、以後、立花家とは諍わなくなった、という事です。

さて、天野源右衛門が立花家中にいたおり、彼は主君宗茂の朝鮮出兵にも参加し、文禄の役の一大決戦、碧蹄館の戦いで大功を揚げていました。

この時の宗茂の快勝を『天野源右衛門覚書』は、次のように述べ

「こいつは、いざとなればわしを一突きで殺すやもしれぬ」と心底、思い知った正則は、以後、立花家とは諍わなくなった、という事です。

さて、天野源右衛門が立花家中にいたおり、彼は主君宗茂の朝鮮出兵にも参加し、文禄の役の一大決戦、碧蹄館の戦いで大功を揚げていました。

この時の宗茂の快勝を『天野源右衛門覚書』は、次のように述べ

ています。

「抑日本において源平両家の争、元弘建武の乱より以来、勇剛の名将多しといえども、いまだ聞ず。四千にたらぬ（実際は二千五百に足らず）兵を以て三十万の敵を破ると云事を」（別称『立花朝鮮記』、筆者、句読点をふり、現代かなづかいに改める）

この覚書は、一番鎗を宣言した天野が、僅かな差で成せず、立花家を去って、唐津藩主となった寺沢広高に仕えたおり、広高の指示で書き上げたとされています。

安田作兵衛時代の天野と、寺沢広高は、旧知の間柄でした。

広高は旧友に八千石の禄を与え、厚遇しています。安住の地を得た天野は、徳川の幕藩体制が整った前後に、大往生をとげました。

安田は「信長を刺した男」という、一事のみが強調されますが、筆者は宗茂の活躍を記録した方にこそ、安田の天野の価値を認めます。

こんな人物も、柳川にゆかりを持っていたのですね。（つづく）

この覚書は、一番鎗を宣言した天野が、僅かな差で成せず、立花家を去って、唐津藩主となった寺沢広高に仕えたおり、広高の指示で書き上げたとされています。

安田作兵衛時代の天野と、寺沢広高は、旧知の間柄でした。

広高は旧友に八千石の禄を与え、厚遇しています。安住の地を得た天野は、徳川の幕藩体制が整った前後に、大往生をとげました。

安田は「信長を刺した男」という、一事のみが強調されますが、筆者は宗茂の活躍を記録した方にこそ、安田の天野の価値を認めます。

こんな人物も、柳川にゆかりを持っていたのですね。（つづく）

加来先生が解説のテレビ番組がスタート

10月9日から加来耕三先生が解説をつとめる『偉人・素顔の履歴書』（BS11、毎週土曜午後8時）が放送スタートします。それぞれの時代に活躍した英雄たちの「偉大な功績」と「意外な素顔」をクローズアップする歴史教養番組。教科書に記された歴史的事実だけでなく、幼少期のエピソードやこぼれ話、最新の研究成果も紹介していくそうです。ぜひ、ご覧ください。

【問】市観光課観光推進係 ☎77・8563



歴史家・作家 加来耕三さん



①よしながこうたくさんが来館②印刷では味わえない絶妙な色合いの原画が並んだ



②

自ら撮影した写真を愛車にラッピングした吉川さん



全国へ柳川観光のPRを 愛車に川下りや有明海の夕日をラッピング

吉川健一さん（下宮永町、75歳）が柳川をPRするため、自家用車に自ら撮影した川下りの風景と有明海の夕日をラッピングしました。吉川さんは観光バスの運転手として各地の観光地を巡る中で、柳川の良さにあらためて気付いたそうです。地元への恩返しのために、愛車で柳川の魅力を宣伝しようと3年前にラッピングを計画しました。アマチュア無線が趣味の吉川さんは、10月に愛知県で開催される大会に参加予定。「高速道路を走って、全国に柳川観光をPRしたい」と話してくれました。

まちかどレポート

身近な話題などお知らせください。情報をお待ちしています。
【問】企画課広報広聴係 ☎77・8425

絶 妙な色合いを原画で感じて よしながこうたくさん原画展を開催

市立図書館は、7月30日から8月9日まで県出身の絵本作家よしながこうたくさんの「絵本原画展」を開催しました。「給食番長」や「ようかいガマとの」などの絵本で人気のよしながさん。原画を一目見ようと450人が来館しました。8月8日には、よしながさんが来館。絵葉書やピンバッジのプレゼント、サイン会なども行われました。市内から訪れた親子は「よしなが先生の絵が大好きで、迫力のある絵や絶妙な色合いを楽しむことができました」と話してくれました。

笑顔で県大会優勝を報告した石橋君（右）と藤丸君



柳川の1、2番コンビが躍動 市内の小学生が少年野球県大会優勝に貢献

中島小6年の石橋孟也君と有明小5年の藤丸央丞君が所属する大牟田市の少年軟式野球チームが、県大会で初優勝しました。1番バッターでショートを守る石橋君は、果敢に盗塁を狙うチーム1番の俊足。2番でファーストを守る藤丸君はチーム唯一の5年生レギュラーです。8月10日、市役所三橋庁舎を訪れた2人は「練習の成果を発揮して優勝することができた」と沖教育長へ優勝を報告。沖教育長は「柳川の1、2番コンビが活躍してくれてうれしい」と喜びました。